

62期千賀茂世さんの便り

事務局より

北辰会では数年前から、1期から16期までの先輩方に近況をお知らせし、体調等をお聞きする「北辰会声の便り」活動に取り組んでいます。

千賀さんには北辰会事務局員として15期～16期生の先輩諸氏へ「北辰会声の便り」を届けて頂いています。その活動を通しての感想が事務局へ寄せられましたので、抜粋して掲載させていただきます。

【千賀さんの便り】

2019. 1. 22 (火) 第二弾をお送りします。

1月16日には15期と16期の各1名の先輩方と、1月22日には15期の4名の先輩方とお話が出来ました。

先輩方々とお話させていただくほどに尊敬の念が湧いてきます。

「北辰会」この名前に、電話口の先輩方の声が解れる気がします。とても信頼できる、安心できる、大切な「北辰会」なんです。

感動して、嬉しくて、涙出ます。(T_T)



2019. 1. 24 (木) おはようございます。第三弾です。

15期の先輩3名、16期の先輩1名の方とお話が出来ました。

今日も朝から、元気な先輩方のお声が聴けて嬉しかったです。

私は長女で、子どもの頃からお兄ちゃんお姉ちゃんが欲しくて仕方なかった。

今、事務局の先輩方や電話の向こうの先輩方が、求めている兄姉のようです。

久しぶりに電話を掛けた妹のように話してくださる。

ああ、4、5分の電話ですが、なんかしみじみ嬉しい。

一通りは、朝の時間に掛け出られなかった方には夜の時間に掛けてみるつもりです。ではまた明日、頑張ります。

2019. 1. 25 (金) おはようございます。第四弾です。

今日は、お二人にとどめました。

お話しさせて頂いていると、先輩方々の人生の一端に触れることが出来ます。

声の調子、語り方、息遣い…内容だけでなく、心の軌跡のようなもの。

おこがましいかも知れないのですが、電話を置いた後、しみじみ感じる喜びや切なさ、やるせなさ…泣けてくるのです。

今、行っている青少年自立支援ホームの子どもたちと対比して考えてしまうせいもあると思いますが。

私たちは、学びたいと思えた。

ここの子どもたちは、ただ生き延びてきただけで、精一杯。

自分がこの先どうしたいのか？何をゴールとしてそこに一心に向かうのか？

ゴールすら考える余裕などない。日々、流され生きている。

まだ、虐待の陰に怯えながら、人を信頼できないまま。

恐る恐る… こちらに歩を進め隠していた手を伸べてくる。

アルバイトも高校も続かない…。

必死に頑張っって働く姿の親モデルがなく、ネグレクトや虐待で頭を抱え、息を潜め刹那的に生きてきた。

何かを継続していくこと、そのことから得る達成感。学ぶことで世界が広がる喜び。

何も見ていない、教えられてもいない。

やはり、手を差し伸べ、一からコツコツ気長に教えてくれる場が必要不可欠。

勉強だけでなく、自分が居ても安心な場所。

高校の躰をなしていなくても、とてつもなく大きな学びの場であった北野定。

私は、いま、北辰会という大きな信頼できる組織で、多くの尊敬でき憧れられる先輩たちに見守られている。北野高校定時制があったらこそ！

今、つくづく、子どもたちにも北野高校定時制を与えてやりたい。

すいません

最近、施設の職員の代わりに子どもらと時間を過ごす事や夕飯を作ってくることがあるのと、昨夜、施設の運営委員会があったものですから、人生について考えることが多かったものですから、感傷的になっていますね。

千賀

事務局より

千賀さんからの「北辰会声の便り」は、それを受けた先輩諸氏も千賀さんも、そして北辰会も元気を頂いていることがわかる内容です。先輩諸氏との会話の内容を紹介出来ないのが残念です。千賀さんの人生観、若者を思う気持ち、定時制高校など教育の原点がヒシヒシ伝わりました。そして、北辰会が益々オアシスを果たしていることを実感しました。